

在宅医療・介護をテーマにした映画

「ピア～まちをつなぐもの～」オンライン上映を開催しました

●視聴期間：令和3年12月24日～12月30日

●申込者：262名



いなべ在宅医療・介護連携研究会運営委員会では、市民の方と医療・介護関係者が一緒になって地域の在宅医療と介護の連携について学び考えることができるよう、住民参加型事業を実施しています。令和3年度は、専門職の役割を知っていただくために、在宅医療・介護をテーマにした映画「ピア～まちをつなぐもの～」オンライン上映を開催しました。10代から80代と幅広い年齢層の方にご視聴いただき、「色々な職種の人が連携していることがわかった」「映画を観る機会ができてよかった。」と好評でした。今後も地域の方々に、在宅医療や介護について深く理解していただけるような企画を考えていきたいと思います。

<一般>

医師、ケアマネジャー、介護に携わる各々の皆さんの連携サポートが素晴らしいと思いました。このようなサポートを一人ひとりが平等に受けられる社会になることを願っています。

息子が介護に興味を持っており、何か気付きが得られたのではないかと思います。

その人の過ごしたい場所で、その人らしく・・・理想はそうでしょうが、なかなか叶えてあげられないのが現状なのではないでしょうか。それを変えていかなくては・・・確かにその通りだと思いました。

10年ほど前には、まだまだいなべの地域で映画のような日常は少なかったように思います。今は確実にそのような日常があり、医療・介護の専門職の皆さんの努力に感謝します。

いろいろな職種のひとが、連携しているとわかりました。僕は、大変なこともあると思うけど介護福祉士になりたいと思いました。

私は将来介護福祉士になりたいと思っています。そのうえで大切にしなければいけないことを、今回映画を見て知ることができました。将来患者さんの気持ちを第一に考えて寄り添うことができる介護福祉士になりたいなと思いました。ピアという言葉とてもいい言葉だなと思いました。

自分がどのような治療を望むのか考えておくことや、周りに伝えておくことの大切さを感じました。この映画のようなサポートが広がって欲しいと思いますが、医療や介護に携わってくれる人たちに感謝したいと思います。

視聴者の声 (一部抜粋)

<医療・介護職>

生と死の狭間で働いていると、ふと疲れてしまうことがあります。今はまだ在宅に興味があるわけではありませんが、映画を見て勇気と元気をもらい、また頑張って患者さんのお世話をしようと思いました。映画館になかなか足を運んで見る機会がなかったので、今回こんな形で作品をみることでできてとても良かった。

最期までその人らしく生きるということの大切さを改めて思いました。在宅はチームで支えていくけれども、利用者やその家族から学び支えてもらうことの方が多いようにも思いました。

いろいろな形での看取りがある中で、近年在宅を望む方が増えています。本人の意思を家族がどこまで叶えられるかは、チームの連携が重要です。ケアマネジメントの重要性を再確認しました。

面会が難しい世の中、ドア越しでも会えると涙する患者さんを見たりして家族の存在は大きいと感じていましたが、この映画を見て改めて人の愛を感じました。素晴らしい作品です。子供たちや介護に携わっている方、いない方も是非観ていただきたいと思いました。

視聴者の年齢

